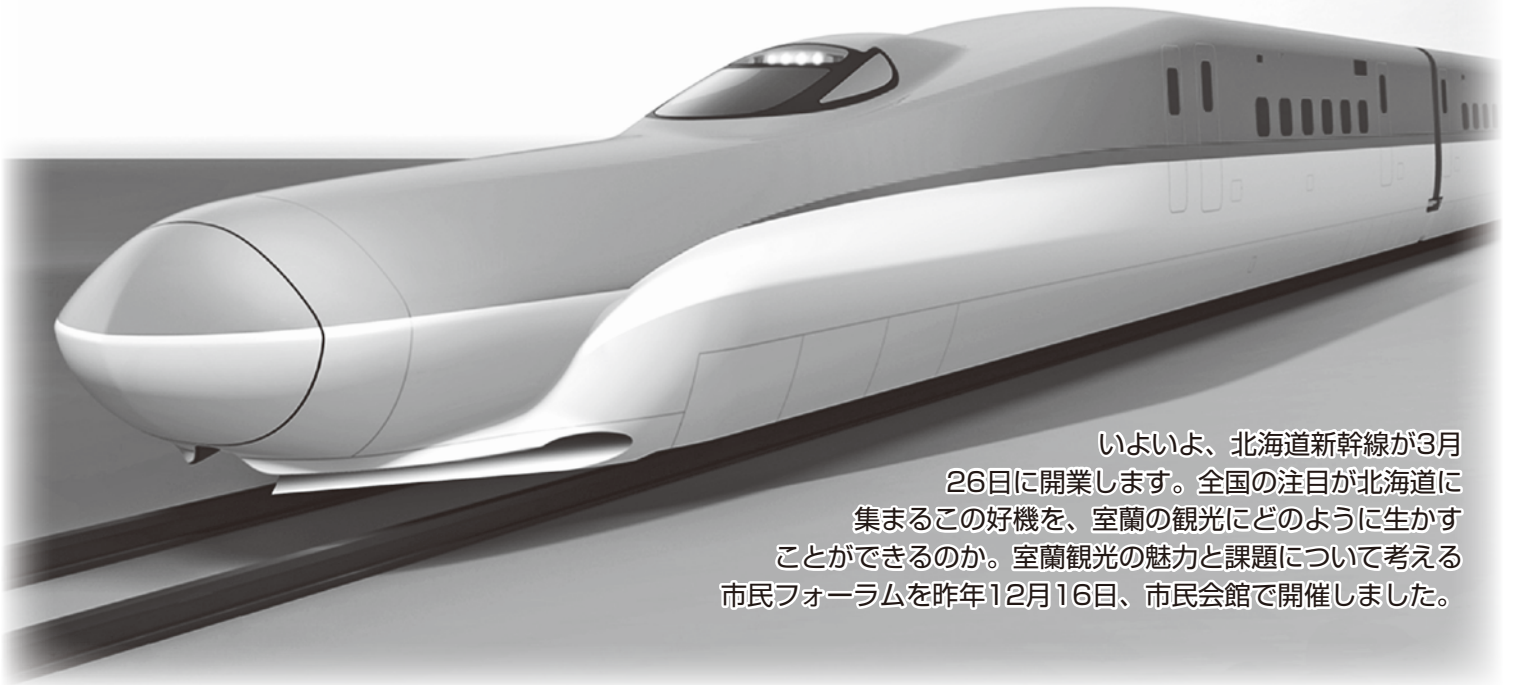


北海道新幹線開業100日前

市民フォーラム

新幹線効果を室蘭観光に活かすには



いよいよ、北海道新幹線が3月26日に開業します。全国の注目が北海道に集まるこの好機を、室蘭の観光にどのように生かすことができるのか。室蘭観光の魅力と課題について考える市民フォーラムを昨年12月16日、市民会館で開催しました。

第1部 基調講演

「I LOVE 室蘭 ～ふるさとの魅力再発見～」

講師

NHK札幌放送局 アナウンサー

高橋 美鈴 さん

室蘭市出身。大学を卒業後、NHKに入局。札幌放送局からスタートし、東京アナウンス室を経て、平成25年から再び札幌放送局に勤務している。



橋を渡るところなど、ちょっとしたアイデアの中に地元に住む人の室蘭への愛やこだわりが感じられます。

ほかに、噴火湾のイルカ・クジラウォッチングなど、聞いたことはあっても、実際には体験したことがないということもあるのではないのでしょうか。

それと、今話題の室蘭夜景。私が以前住んでいた時にはこのような話はなかったので、早速行ってみました。祝津の展望台から見た夜の白鳥大橋は海とのバランスが良く、とても品の良い風景で、昼とはまた違う美しさに心を打たれました。

時代と共に変化する価値観

時代は変わっていて、前に北海道で勤務していたときと今では、人の価値観も変わってきていると感じます。その土地に行くと、そこにしかないものを「食べる、見る、聴く」、そして成り立ちや歴史が分かるものが、今、注目されています。そういう意味で、室蘭の海岸線やヤン昆布などは、風土や歴史と結び付いたとても印象的なものだと思います。

工業のまちというだけじゃなくて、海、山があつて、他にもたくさん歴史がある室蘭。この魅力をどうすれば、より多くの人に伝えることができるかを考えていければと思っています。

室蘭と今の私

アナウンサーとして、札幌に戻って約3年。自然と室蘭や胆振日高方面に足が向き、いろいろな所を訪れました。子どもも生まれ、今の私の視点で室蘭と付き合えるようになり、高校生までを過ごしたふるさと室蘭とはまた別の視点でこのまちを考えられるようになりました。

心引かれる室蘭の魅力

皆さんは、珍しいと思わないかもしれませんが、室蘭周辺には動物と触れ合えるところがたくさんあります。例えば、水族館はペンギンが間近で見られ、パレードでミニ白鳥大

第2部 パネルディスカッション

「室蘭観光のこれから」



パネリスト

■ 高橋美鈴さん

室蘭市出身。NHK札幌放送局でアナウンサーを務める。

■ 佐藤慎吾さん

室蘭市出身。平成27年4月に設置された「室蘭市総合戦略推進会議」の公募委員を務める。

■ 山口一彦さん

東京在住の写真家。室蘭の風景、人物の写真集を出版し、平成27年2月には、室蘭ふるさと大使に就任した。

■ 八木皆実さん

旅行雑誌「じゃらん北海道」で、胆振地域の観光客のニーズ調査や研究を担当している。

■ コーディネーター 小泉 賢一 室蘭市副市長

室蘭が持つ魅力と発信方法を探る

小泉 本日のテーマである「室蘭観光のこれから」を探っていきます。室蘭の魅力とその発信方法について、お聞きしたい。

山口 「自然が美しい」というだけの場所ならいくらでもあるが、自然美と人工美を兼ね備えているまちは室蘭だけ。東京近郊でいうと、川崎の夜景から伊豆の自然までおよそ2、3時間。それが室蘭なら15分で全部回れる。風景がたくさんあって、これほど楽しいまちはない。東京や大阪の人にもっと室蘭を知ってもらいたいと思うが、情報が少ない。大きな駅などにパンフレットやポスターを設置して、目立つように情報発信して欲しい。室蘭は宝石で言えばまだ原石。磨けば磨くほど輝いていくと思う。これからは若い人たちがSNSなどで情報発信できるので、室蘭という言葉が全国に知れ渡るところを期待している。

佐藤 昨今は、観光を中心に自治体間での競争が激化していて、「ナンバーワン、オンリーワン、ファーストワン」この3つの「ワン」がキーワードになる。一番なのか、唯一なのか、初めてなのか。室蘭が持つ景観や歴史は、この3つの「ワン」に当てはまるものが多いので、これらの観光資源を東北、関東の人たちに

どのように伝えていくか広告戦略が重要になる。

八木 夜景見学バスは、市内だけでなく札幌などの市外からの利用客も増えているので、これからも力を入れていくべき。また、室蘭全体のイメージをどう伝えていくか、景観やノスタルジックな雰囲気やポスターなどを利用して広げていくといいかもしれない。例えば、帯広や十勝という言葉からは農業のまちで、牧場があつて牛がいるというようなイメージが浮かぶのではないか。室蘭に来る人にも、そういった室蘭ならではのイメージを持つてもらうことが必要だと思う。訪れた人に情報を提供する情報発信の拠点となる施設の整備も求められる。

山口 まちで、「むろらん」とひらがなで書かれているポスターなどを見かける。「室蘭」という漢字はインパクトが強く、想像をかき立てられる。「蘭の花が室(部屋)の中にある」イメージが連想され、素敵だと思う。



「室蘭」という人の想像をかき立てる漢字を生かした情報発信を

山口



▲3年目を迎えた室蘭夜景見学バスツアー。ボランティアガイドによる解説が満足度の向上に。

道の駅「みたら室蘭」魅力向上のためには

まちに興味を持ってもらうために、室蘭をまだ知らない人に向けた外出すポスターには漢字を使った方がいい。

小泉 新幹線開業後は函館からレンタカーで旅をするということも考えられ、その際に拠点となるのが道の駅。室蘭の道の駅は、白鳥大橋の開通に合わせて記念館として作られたもので、物産や飲食を中心とした道の駅とは別の成り立ちのため機能の面で違いがあるが、観光客の滞在時間を延ばしたり、来場者数を増やすための機能アップ・魅力向上につい

て伺いたい。

佐藤 自身、総合戦略会議の場や市民の方とお話する中で、多くの意見を伺っており、さまざまな改善策があることは事実。これまでに挙げられている改善のアイデアをある程度具体化させるための、専門的な知識を持つ実行組織が必要な段階にきている。

八木 道の駅は、情報発信の拠点や休憩スポット、周辺のまちを回るときの交通の拠点などの役目を持っているが、隣の伊達市では、市民の利用も多く、「市民にどう使ってもらうか」も重要。また、道の駅は「まちの産業と結びついているか」も大事で、「室蘭は工業のまちで、これを道の駅とどう結び付けていくか」がまちのPRには不可欠です。

高橋 観光客の目線で見ると、旅先ではそこにしかないものを買いたい。



道の駅周辺は、
長時間滞在してもらえ
る可能性のある地域

高橋



▲平成10年4月、白鳥大橋の開通に合わせてオープンした道の駅「みたら室蘭」。市民による「魅力アップトーク」なども行われ、さらなる機能改善が期待される。

室蘭には、カレーラーメンやうずらのプリンなどがあるが、欲しかったもの以外にも「こんなものがあるんだ」という発見があればいい。近くには水族館や温泉があり、景観も良く可能性のある地域。遠くから訪れる場合は、一カ所を目的に来るよりも、あれもこれもと組み合わせがることが大事で、道の駅はその拠点として長く滞在してもらえらる施設だと思ふ。

山口 今の道の駅にはワクワク感がない。温泉や水族館があって、おいしいものが食べられる祝津・絵鞆工

リアには魅力がたくさんある。また、がらんとしている部屋を改装して、写真などの展示物を常設できたらいい。運悪く雨が降ると、せっかく来てもいい景色に出会えない。そんな時に、写真でその景色が観れたら、「また、来てみよう」と思ってもらえるのでは。

観光による経済 効果を高めるには

小泉 室蘭を訪れた人に、買い物や食事、宿泊してもらおうなど、経済効果を上げるためのアイデアについてお話を。

八木 来てくれる人を増やすためには、広域連携がカギになる。西胆振だけでなく、日胆地区、函館とも連携し、札幌に向かう途中で室蘭に立ち寄ってもらうための動線を作る必要があります。

高橋 お土産の品数を増やすことよりも、誰でも買いやすくなるのが大切。ヤン昆布やうずらのプリンなど、いいものはあるので、ふらつと室蘭を訪れた人にもどこで買えるかなどの情報が分かりやすくなればいいが、そのアプローチがまだ弱い。また、夜景のツアーも近隣の温泉街発着のバスツアーはできないだろうか。冬は日暮れが早いので、何か所かで夜景を見学し、お土産を買って帰るツアーがあるといいと思う。



新幹線を降りた観光客が
室蘭に立ち寄る
動線作りを

八木

山口 何か新しいものよりは、既存のもの知名度向上を目指すべき。関東などで宣伝し、今あるものをどんどん表に出していく必要がある。夜景見学バスツアーでは、駅で解散する以外にも例えば、繁華街で降りる地点を設けてみては。夜の飲食の機会をワンクッション設けることで、長く滞在してもらおうきっかけが作れる。

佐藤 全国に知れ渡ったカレーライメンのように、事務局を置き、PRを一定のマネジメント機関が行うことも重要。新たな物産ということはいえ、お菓子コンテストを行い、優勝したものを市がバックアップしながら新たな物産に育てていくことも面白いのでは。

歴史や伝統を持つ、地域独自の 魅力を観光資源に

佐藤

既存の観光資源を 磨き上げるためには

小泉 室蘭が持つ観光資源を、これからの観光客増に向けて、どういった方向性で磨き上げていくべきか伺いたい。

山口 私の写真集のサブタイトルにも付けた「風の人、土の人」は、地元の人から聞いた言葉。外から来た人をよそ者ではなく風の人と呼ぶ室蘭の優しさに驚いた。旅人は優しくされると、また来てみようかと思うもの。このまちは、都会に比べて人の顔がよく見えるので、皆で協力すれば何でもできると思えてくる。観光資源でいえば、室蘭工業大学の赤フン行列は素晴らしい。若い人たちが、笑いながらじゃなく、真剣に声を張り上げてねり歩く姿を初めて見

都会にはない人のあたたかさがあるこのまちは、
協力すれば何だってできる

山口



たときは、鳥肌が立つほど感動した。
佐藤 観光という去何かをオープンなものにするものが多いが、逆にひっそりと続く日常の中にある地域独自のものを伝えていく観光戦略もいい。南部陣屋の史跡や、室蘭港の大黒島とプロビデンス号のストーリーなど、観光資源として生かせるものが多くある。

八木 これからは、地域・人とのふれあいが必要視される。以前、札幌と室蘭工業大学の学生によるバスツアーを行った際に、「ガイドから得た情報が良かった」という意見が多く挙げられた。こうしたガイドなどを通して地域との触れ合いの機会を増やしていくべき。また「学び」というテーマで、子育て世代をターゲットにして、子どもの自由研究などに、ガイドによる地域の解説や鉄道のまちを生かしたさまざまな体験メ

ニューを提供できると今あるものをもっと良く伝えていけるのでは。

高橋 住んでいる人がどれだけ室蘭の魅力を知っているか、PRできるかが重要。

そこでしかできない体験というのを旅人は求めている、宣伝だけでなく地元の人が本当に自慢できるものを見ると満足度が上がる。

ちよつと入った店に大黒島の絵があるとか、夜景でも室蘭の人が体験を話してくれるとか、そういうことが満足度の向上になるのでは。ただ知っているだけではなく、一人一人がPRしていけることが大切になってくる。そのためにも、市民や子どもたちが室蘭独自の魅力を体験することも大事だと思う。

小泉 満足度の向上や磨き上げということで、キーとなる「人」。地元の人との触れ合いなどが訪れた人の満足度につながる。夜景見学バスのガイドについても、市民ボランティアが講習を受けて、解説してくれている。夜景と地元の人との触れ合いがセットで楽しめる、それが夜景見学バスの乗客数を伸ばしている理由の一つ。単なる景勝地、観光地のPRだけでなく歴史や知られざる逸話を市民が話せることが大事。そのため小さいころからのふるさと学習や大人の社会見学のようなものを通し

て、訪れる人に自慢できるようなことを勉強する必要があると感じた。

これからの室蘭観光

小泉 北海道新幹線開業後における室蘭観光のこれからについて、アドバイスをお願いします。

八木 今回の新幹線開業はいい機会です、入ってくる観光客に室蘭を知ってもらい、足を運んでもらえるようになって欲しい。まちによって売りは違うので室蘭は何で売っていくのかというテーマを持つことが必要だと思います。例えば、産業をテーマに夜景や製作体験、ものづくり見学などにもガイドによる解説を生かすのもいいかもしれない。

佐藤 市民一人一人が観光大使という気持ちを持ちましょう。増加する外国人観光客をもてなすための簡単な英会話、外国のマナーやエチケットの勉強会をしてみてもいい。行政・市



▲近年相次ぐ大型客船の入港。市民による外国人観光客へのおもてなしの拡充が期待されている。

民など全体を巻き込んだオール室蘭で臨んでいくことが大切。

山口 室蘭には素晴らしい景色があって、札幌や地元の人がたくさん写真

を撮っているのを、写真コンテストをしてみてはどうか。富良野、小樽などに比べ、観光ではまだメジャーじゃない地域なので、そこを逆手にとっては。その写真がいろいろなコンテストを通して、広がっていくと面白い。札幌だけに情報を発信するのはなく、本州に向けても情報発信をすることが必要。旅行雑誌では地球岬しか紹介されない。他にもいいところはたくさんあるのに、地球岬に来て観光したらすぐバスに乗って行ってしまふ。実は、イタンキ浜はすごく、都会であれば2時間ぐらい歩かないと出会えない景色なのに、すぐそばに住宅街がある。人工のものとは自然が隣り合わせに存在している風景を見ると、まるでタイム

一人一人が観光大使になつてオール室蘭で世界に向けたPRを

佐藤



マシンに乗ったような気分になる。

そういう室蘭の写真を撮りませんか、という打ち出し方もある。全国的に見ても人を集められる素材があるので、具体的にアクションを起こして欲しい。また、情報が少ないので、新幹線の駅や函館のホテルにパンフレットを置かせてもらいましょう。

高橋 情報発信というのは、住んでいる人がまちの魅力をどれだけ知っているか、PRをできるかが重要で、地元の頑張りベースになる。新幹線の開業は、道外から人が来るだけでなく、地元の人が改めて横のつながりやまちの魅力を再認識するいい機会。先につながると思う。歴史・文化に根付いた人のつながりがたくさんあるまちなので、そう

室蘭観光は何を売りにしていくのかしっかりとしたテーマを持って

八木

いった良さが新幹線をきっかけに輝いていつて欲しい。

小泉 これまでお話を伺った中で、新たなものを探すよりは、室蘭が持っている「本物」を磨き上げ、地元での浸透を図ることが大切だと感じた。新幹線開業から、15年後には、札幌までの線路が北回りで延伸され、主要な観光のルートから室蘭が外れて客足の減少なども想定される。開業は観光のスタートとしてだけでなく、15年後に向けた室蘭にしっかりと観光客が来てもらえるように、観光の魅力を向上させていく取り組みの始まりでもある。いただいたキーワードをどのように形にして生かしていくかを考えながら、取り組みを進めていきたい。

《詳細》
観光課

025-333200